



1996～1997年度RIテーマ

築け未来を  
行動力と先見の眼で

青い空 緑の山と風  
黄色のうねりは  
人類の理想 文化を表わす。  
それらが混然一体調和して  
ロータリーの理想に向って  
昂って行く姿を示している。



クラブの標語 "奉仕の実践"

...行動する多摩グリーン...

国際ロータリー第2750地区

東京多摩グリーンロータリー・クラブ

No. 310 7-34  
1997. 3. 26 発行

# Weekly Report

4月15日、IM実行委員会最終会合が予定されています。  
萩生田会員に出席をお願いします。

鈴木なつみさんがブラジルから帰国後、3月26日に親子  
で例会に参加の予定です。

東京日野ロータリークラブと東京調布むらさきロータリ  
ークラブの例会の変更があります。

## ◎次年度会長報告

会長エレクト 吉澤 洋景

先週の理事会（第6回）で、坂田会員と新海会員の退会  
が決まり、それに伴う委員会組織の若干の手直しをしまし  
た。

藤本会員を雑誌委員会の委員長に、そして、小泉会員  
（SAA委員予定）を会報委員に変更します。

委員会名簿の訂正、親睦委員会 横倉譲（正）に訂正。

## 第310回例会報告（3/19）

（1996年～1997年度第35回例会）

司 会 SAA委員会 宿院 利幸  
◎点 鐘 会 長 遠藤 二郎  
◎ロータリーソング「日も風も星も」  
ソングリーダー 吉沢 洋景

## ◎会務報告 会 長 遠藤 二郎

青少年交換派遣学生の鈴木なつみ君が1年間のブラジル  
への留学を無事終了して、本日帰国されます。本日午後1  
時、成田に到着の予定です。お母さんよりクラブの皆様にく  
れぐれもよろしくとのお礼の電話がありました。3月26  
日の例会に本人とご挨拶にお伺い致しますとのことです。

本年度8人目の入会会員、宇智田和秀さんの入会式を本  
日予定しています。

## ◎幹事報告 幹事 須藤 起雄

4月12、13日、地区大会が予定されています。会場には  
全クラブのバナーが飾られますので、参加される方は見て  
おいて下さい。

鈴木なつみさんと小野なおみさんの現況報告書を配布し  
てありますので読んで下さい。

## 委員会報告

## ◎ニコニコBOX

親睦活動委員会 山崎 光一

藤田 育男（町田RC）

本日はよろしくお願いいたします。

関岡 俊二

卒業シーズンです。我が家もようやく、長男が大学を卒  
業できました。

遠藤 二郎

宇智田様、ご入会おめでとうございます。お客様ようこ  
そ。

須藤 起雄

宇智田さん、ご入会おめでとうございます。

藤本 吉文

昨夜、合同委員会（花見例会打ち合わせ）の事、私の頭  
からすっかり消えていました。すみません。

赤雄 恭雄

## 東京多摩グリーンロータリー・クラブ

会 長：遠藤 二郎 副委員長：田畑 博  
幹 事：須藤 起雄 委 員：大松誠二・伊藤英也・村上久  
会報委員長：小坂 一郎 杉野志保子・山崎光一

例会場 京王プラザホテル多摩（たまつばき）

事務局：東京都多摩市落合1-43  
京王プラザホテル多摩 561号  
TEL 0423-72-6463/FAX 0423-72-6491

例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30

国際大会は、3クラブ合同のほか、調布、港南、藤岡北の各ロータリークラブからも参加、総勢34名の予定です。  
絆工房一同

3月15日、絆工房参加者の釣銭です。本日は絆工房開催日。よろしく。

本日合計 金15,010円 (累計 945,461円)

#### ◎出席報告

出席委員長 橋口 洋三

会員総数 56名

出席義務者数 56名

出席者数 43名 欠席者数 13名

本日出席率 80.36 % (45/56)

|      |       |        |         |
|------|-------|--------|---------|
| 3/12 | 訂正出席率 | 87.27% | (48/55) |
|------|-------|--------|---------|

|     |         |        |         |
|-----|---------|--------|---------|
| 3/5 | 最終訂正出席率 | 88.68% | (47/53) |
|-----|---------|--------|---------|

欠席者 遠藤 立一、萩生田 茂夫、伊神 稔、  
小城 章員、森田 舞子、城倉 正博、田畑 博、  
北村 幸彦、高野 範城、田中 實、横倉 譲、  
小泉 博、相澤 希一

メイクアップ

須藤 起雄 3/18 多摩RC

遠藤 立一 3/6 分区分会・幹事会

#### ◎新入会員入会式

会員増強委員会 足立 潤三郎

新入会員宇智田和秀氏(レップテック株式会社 代表取締役)を会員全員の賛同の上、入会式を行います。



新会員の宇智田和秀さん(中央)

1. 入会証書授与 会長 遠藤 二郎

\*バッチ貸与

2. 会員証他授与 幹事 須藤 起雄

3. 記念写真

4. 『四つのテスト』授与 職業奉仕委員長 赤尾 恭雄

5. 所属委員会とアドバイザーの指名 会長 遠藤 二郎

SAA委員と広報委員を、アドバイザーには、長谷川

明宏会員と、赤尾恭雄会員にお願いします。

6. 推薦の言葉 推薦者 須藤 起雄

本日出会されました、宇智田和秀さんとの関係は、昨年遠藤会長が推薦された方の入会を勧めたところ、ご本人の都合で、ご辞退されました。その代わり素晴らしい人をと云うことで宇智田和秀さんを紹介されました。

クラブ内に推薦者がいなく同じ電気関係と云うことで私が推薦者になりました。10月の定例理事会を経てクラブ内の諸手続きが完了し今日にいたりました。正直なところ私が宇智田さんにお逢いするのは今日が始めてですが、よろしくお願い致します。

プロフィールはこの後ご本人よりお話があると思います。早くクラブになじめるよう会員の皆様の支援宜しくお願い致します。

7. 新会員挨拶 宇智田 和秀

8. 歓迎の言葉 会長 遠藤 二郎

\*歓迎ブーケ&拍手

#### ◎卓 話

内田 茂男

本日は「NGOの活動について」お話をさせていただきます。「ODA」や「NGO」という言葉を新聞などでごらんになったことがあると思いますが、「ODA」は政府開発援助であり、「NGO」は民間援助団体で、いずれも発展途上国に対する援助を行っています。

わが国のODAは予算規模年額1兆円で、政府援助としては絶対額で世界1~2位です。これは、相手国政府の要請に基づき実行されるもので、経済発展のため基盤投資(電力、道路、水道、鉄道の建設等)としての援助ですが、あまり評判が良くありません。途上国にあっては、軍事政権等の独裁政権国が多く、地域住民の生活実態を知らないままに相手国の政府の要請に基づいて援助を行うことが、住民の犠牲によって政権に利する結果になる場合が多々起こります。ODAの場合は、貧しい住民の生活援助に

なっているかどうか、疑問になっています。

これに対してNGOは、日本の総額は200億円と小額ですが、その目的は相手国の本当に貧しい人、困っている住民のために、その生活援助として使用されます。相手国の現場へワーキング・スタッフを派遣し、現地住民と一緒に活動する費用、生活費、資材費等を援助するのが原則であります。

欧米諸国では、キリスト教国家がほとんどですから、古くから隣人愛の信仰による慈善活動が活発に行われていますが、日本では、1981年にアメリカ大統領J・F・ケネディが提唱した「平和部隊への参加」が世界に向けてのボランティアのスタートであったと思います。しかし、我が国も、2年前の阪神・淡路大震災以降は、ボランティアや募金活動も活発になり、NGOもやがては欧米の水準に追いつくと思います。

わたしがNGOと直接関わったのは今から約6年前のことです。多摩市へ本社新築移転を控えて創立25周年記念事業として何をしたらよいか、友人の棚橋氏（NGO日本国際飢餓対策機構在籍）に相談したところ、「恵まれない国々へトヨタ車を寄贈すれば、現地の人々から喜ばれますよ」と提言してくれました。1992年1月、1号車は世界の最貧国モザンビークへ贈りました。当社のコミュニティホール、グラン・プラスで毎月開催される定期コンサートに、募金のメッセージを伝え、協力をお願いしています。グラン・プラス5周年を迎える今年は6台目の車をウガンダへ贈る運動をしています。

NGOの現地で働くスタッフの活動や生活費を直接支援する「暁の会」（会員300名。年収約500万円）は、スタッフの年数回の現地活動報告レポートと、帰国時に活動の実情報告会を年2回開催しています。活動報告の一端をご紹介します。

東京大学大学院卒（保健学）の柳沢美登里さんは、バングラデシュ、ダッカで保健衛生に関する教育、特に、現地の母親達が自分たちで改善能力を身につけられるよう、識字教育、リーダー育成等幅広い活動を6年間行ってきました。

あるとき、母親と娘二人が貧しい夕食（マンゴー2個とご飯）を互いに分け与えてだまって食べている光景を見て、姉妹の母親に示した無言の思いやりが、心を熱くしてくれましたと柳沢さんは報告しています。

また、アフリカのソマリアから、ルワンダの難民キャンプのあるザイル・ゴマで看護活動をしている竹内緑さん（ロンドンの医科大学卒業、熱帯医学）は、ソマリアの食糧配給所で一日2回の配給も十分なものではない中で、何も食べずに1歳未満の赤ちゃんに豆乳を飲ませ続けている兄（8歳ぐらい）と、ユニミックスを食べている3歳ぐらいの男の子三人兄弟の、とてもおだやかで、きれいな目をしていたことが忘れられないことと、ザイルでは、仕事を終えて宿舎へ帰る途中、突風でボートが転覆し、3時間余り波間を漂い、無事助けられましたが、ルアンダ難民を助ける側にいた私が彼らに助けをもらい、人は皆、助け助けられる関係にあることを知りましたと報告しています。

最近、感ずることは、今世界で餓死する人は年間1,500万人といわれています。私たちの力ではいかんともしがたいことですが、私たちは、一人一人が一人の生命を救う、この心が大切だと思います。そして、人間は一方的に助ける存在ではあり得ない、必ず助けられることもあるということです。このことは我々の社会生活の中でも共通する関係ではないでしょうか。

（今週の担当 伊藤）